



# 市政と触れ合う 広島市政リポート

2022年 新春号

やわらかな春の日差しに包まれる今日この頃、皆さまご清祥にお過ごしでしょうか。

年明けに新型コロナウイルス感染症が急拡大を見せた後、現在はピークを脱して感染者数も減少傾向にあります。それでも依然、予断の許されない「コロナ禍」にあります。

重ねて、寒暖差の激しい季節の変わり目でもあり、皆様におかれましても何卒、お身体にはご留意くださいまし。

つきましては、巷間でも新年度を迎えるなど、なにかと気忙しい折、誠に恐縮ですが、「年度替わり」のタイミングにあたり、ここに「昨年度の活動報告」をさせて頂く所存です。

結びに、皆さまの益々のご多幸と何よりのご健康を心から祈念して。



広島市議会議員 石橋りゅうじ



## Report 01

### 市政を見るために まずは広島市のおサイフの話

令和3年(昨年)度予算

「昨年度の市政（活動）報告」を進めて行く前段に、今一度、市政運営に関して基本的な要素を幾つか再確認しておきます。

まず、昨年度の（新年度は4月～）スタート時に広島市の「お財布の中身」はいくらであったのでしょうか？

皆さまより納めていただいた市税「2,302億円」に、国や県からの支出金を得ては、借り入れなども行い、お財布の中には「6,837億円」ありました。この金額を広島市の「一年間の運営費」に充当します。

上記の「市税」について、広島市の人口は約120万人ですので、あくまで単純に換算すると、お一人様が年間で「約19万円」納税していただいている計算になります。

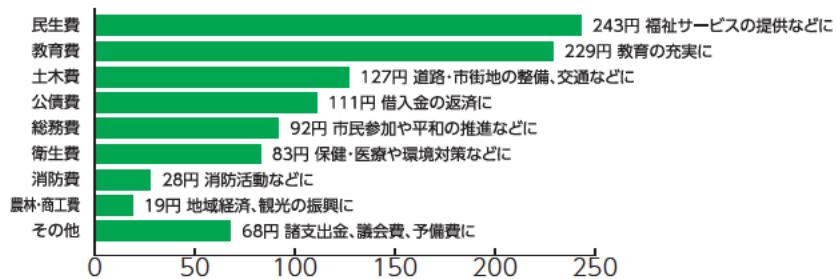
しかし、広島市は年間で、お一人様あたり「約57万円」分の事業（サービス）を行っていますので、この差額となる「約38万円」は？ 過去から現在、未来にまで至る、多くの納税者（国民）が応分に負担して下さっています。世の中は、持ちつ持たれつですね。

#### ■参考

アナタの納めて下さった市税は一体、何に用いられているのでしょうか？ 納税額「1,000円」の使途（ゆくえ）はコチラ▶になります。  
(令和3年度当初予算により算出)

出典：広島市「市税のあらまし」より

#### あなたが納める市税1,000円のゆくえ



広島市のお財布の中身が年間「約6,800億円」であると冒頭に触れましたが、ちなみに東京都は「7兆4,250億円」になります。上を見ても下を見てもキリはなく、肝要なのは「足る」を知り、現在、置かれている状況下で最善を尽くすこと。それでは改めて、これよりダイジェストにて、「昨年度の活動報告」をお届けして参ります。

Next Page ▶



「コロナ禍の緊急支援策」～困窮者と支援者を迅速に結ぶ～

「災害対応」～市の権限で即座に災害対応のできる政令市へ～

「ワクチン接種事業」～未来を予見して図る体制の強化～

「学童保育」～子育て世代の負担軽減へ向けて臨時休所を問う～



## 質問

## 「コロナ禍の緊急支援策」～困窮者と支援者を迅速に結ぶ～

**【前提】** 新型コロナウイルスは未だ世界で猛威を振るい、現在進行形で直接的、間接的に多くの苦しむ人々を生み出し続けている。そこで、岡山市行政では「緊急支援策」の一環として、様々な理由で困窮を抱える御家庭と、そうした人々を支援する民間団体との間を結ぶ「おかやま親子応援メール」というメールマガジンの配信を開始した。同メールマガの内容は「孤独化の進む市民に寄り添い、人と人がつながれる場を紹介する支援情報」「お弁当や生活資材の無償提供や子ども食堂などの居場所情報」「塾に通うのが難しく、学習に不安を抱える家庭へのサポート情報」など多岐に渡り、毎週、事前登録を済ませた人々へタイムリーな支援情報を届けては、利用者の方々からも非常に好評を得ている。

コロナ禍にあって、私も昼夜にわたり地域から様々なお困り事の相談を承る折、こちらも受け身の対応ではなく「人々を能動的に支援する手法はないか?」常々模索している最中に出会ったのが“岡山市の取組”でした。

そこで、即座に現地へ視察に向かい、運営側や利用者の声をヒアリングして回ったところ、困った人々を近隣者が支える、この「共助」を最大限に活かしたシステムは、市民生活へ非常に役立てられており、感銘を受けた私は、岡山で学んだことを持ち帰った後、役所内の関係各局と実現へ向けた協議を重ね、今日を迎えております。

では、改めて伺いますが、このコロナ禍に、支援を必要とする人々と、支援活動に取り組む人々を迅速に結ぶ「おかやま親子応援メール」の取組を、本市はいかに認識していらっしゃいますか?

また、本市でも「同様のシステムを早急に実現していただきたい」と強く要望するものですが、本市の御所見をお聞かせ下さい。

## 答弁

本市でもより多くの情報を届けられるよう努めて参ります。

こども未来局長

議員紹介の「おかやま親子応援メール」は、コロナ禍の緊急支援策として、岡山市のNPO法人を中心に、子育て支援を行う民間団体により組織された「おかやま親子応援プロジェクト」が行政と昨年7月から開始し、複数組織が持つ幅広い情報を収集、発信する取組を行っています。

この取組では、現在メールマガジンに登録した独り親家庭等を中心とする約2,000世帯に対し、各種情報を一週間に1回、2件から3件ほど発信していると聞いており、コロナ禍により支援を必要とする子育て世帯にタイムリーな情報を届けることができ、大変意義あるものと考えています。

次に、本市では、おかやま親子応援プロジェクトのように、NPO法人等による子育て世帯への情報発信が広まっておらず、支援を必要とする方へのタイムリーな情報提供は、コロナ禍にとどまらず、平常時においても重要となりますので、今後は母子寡婦福祉連合会による独り親家庭等を対象とした学習支援事業、社会福祉法人等が行う居場所づくり事業、各区のくらしサポートセンターやNPO法人が行う相談支援事業などに係る、より多くの情報をタイムリーに発信していくよう、LINEなどの活用も含め、より効果的な発信方法について検討していきたいと考えています。



行政からの公助のみならず、世の中では「困窮する人々を救おう」と、数々の懸命なる民間活動が展開されており、困窮する人々と、そこへ手を差し伸べる人々が迅速に情報で結ばれるよう、更なる「共助」体制の確立を目指して行かなければなりません。その橋渡し役は「行政ならばこそ」果たせる部分も多く、こうしたシステムを本市でも早急に実現していただけるよう、よろしくお願いします。

〈補足〉おかやま親子応援メールが実施したアンケートの結果、「最も多く集められた声」に呼応すべく、岡山市で官民が連携して実現に至った「コミュニティ・フリッジ」。(公共冷蔵庫：善意で集められた食品や日用品を登録者が無償で持ち帰れるシステム)





## 「ワクチン接種事業」～未来を予見して図る体制の強化～

**【前提】** コロナ感染の第5波が（2021年9月当時）峠を越した感はあるが、近未来を予見すれば、今後は行動制限が緩和され、気温が低下しては空気も乾燥する年末年始の時期に、次なる「第6波」が訪れる可能性は非常に高い。また、ワクチン接種者の抗体や免疫力の低下に伴い、本市は「3回目の追加接種」対応にも迫られるのではないか。

「任意」を大前提に、今後もワクチン接種を加速させるなら、正しい情報提供（接種メリットの周知・伝達）など、更なる情報戦術の確立と発信強化が必須になって参りますが、本市の御所見を伺います。

また、第6波や3回目のワクチン接種到来を見据え、市民を守る側の「市担当職員」を、まずはクラスターや過重労働から守っては、本市の“安定的な運営体制”も継続しなければならず、その為にも、本格的な冬場へ突入する前段に、これまで以上のリソース（人材・資源）を注いで「現行体制の強化」（その準備）を図っておくべきですが、本市の御見解を伺います。



情報発信を強化して、接種の加速化につなげて参ります。

市長

今後の鍵を握る若い世代が、科学的知見に基づく情報を得た上で安心して接種してもらえるよう、SNS等を活用して適確な情報を発信。また、教育機関や民間企業と協力しての広報等、情報発信を強化し、接種の加速化につなげて参ります。

適宜執行体制を見直し、感染症対策に万全を期して参ります。

保険医療担当局長

現時点では、この冬の感染状況（第6波の到来等）は見通せませんが、引き続き、市内の感染状況を注視しつつ、業務量に応じて応援職員の増員を図るなど、適宜、執行体制を見直しながら感染症対策に万全を期して参ります。



## 「災害対応」～市の権限で即座に災害対応のできる政令市へ～

**【前提】** 大規模な自然災害が常態化して久しい近年、更なる防災・減災を確立すべく、被災者の救助、避難所・応急仮設住宅の設置、食料・飲料水の供給など、災害時の初動対応を「市が救助主体」となり実施できる制度「救助実施市」を取り上げる。参考までに、20政令市の中でも半分以上の都市は、既に救助実施市に指定されているのだが…

近年の多発事例を持ち出すまでもなく、自然災害から市民の貴い命を守り抜くためにも、本市は「発災直後の初動時」に対応可能となるオプションを一つでも増やしておくことは必須であり、ここに「救助実施市

の指定を目指すべき」と強く要望いたしますが、ひとたび救助実施市の指定を目指すならば、その前後にいかなる変化が生じ得るのかも併せて、本市の御所見をお聞かせ下さい。



（自らも災害時は常に最前線へ）

危機管理担当局長



被災地の実情に即した、よりきめ細やかで迅速な対応が行えることから、将来的には救助実施市になることを目指し、引き続き、県との協議を行って参ります。

救助実施市の指定には、救助に必要な組織体制の構築や発災時の資源配分に関する計画の作成等が求められ、また、これまで県負担の災害救助費を本市が負担、基金の積立ても生じるなど、事前に県と十分な連携が必要になります。

一方、本市の災害救助は現在、県からの事務委任を受けて実施し、支障は生じていませんが、指定を受けた場合は、国と直接協議して被災地の実情に即した、よりきめ細やかで迅速な対応が行えることから、将来的には救助実施市になることを目指し、引き続き、県との協議を行って参ります。



## 「学童保育」～子育て世代の負担軽減へ向けて臨時休所を問う～

**【前提】** 8月中旬、本市では長雨により連日「気象警報」が発表され、このような場合に保育園のほとんどは通常どおり開園するが、小学生を預かる学童保育では（夏休みなど長期休暇の際は）朝7時の時点で警報が一つでも出ていれば臨時休所となり、保育園児と小学生を抱える共働きの御家庭など、上の子だけを預けられ対処に追われた。

8月のある日、早朝に出された気象警報によって学童保育は臨時休所になりましたが、午前10時を迎えた頃には太陽の照りつける晴天になり、「早朝の休所判断」は規定の遵守で私も理解は示すものの、全国で

は気象警報が発表された場合でも学童保育を「開所する」自治体は多く、改めて他の政令市ではどのような基準で開所・休所の判断をしているのでしょうか。

また、こうした他都市の基準も参考に、今後は本市でも子ども達の安全面を確保した上で、制度の見直しを行うべきかと存じますが、本市の御見解を伺います。



警報が長期に及び、放課後児童クラブの休所が長期化した場合、保護者の負担が大きくなることから、今後、夏休み期間中などの扱いについて検討いたします。

教育長

本市を除く19政令市のうち、大雨警報などの発表時に放課後児童クラブの休所は5都市、開所は8都市（うち6都市は土砂災害警戒情報など警戒レベル4、2都市は警戒レベル5段階で休所）その他6都市は全市一律の基準がなく、個別の判断と聞いております。

警報の発表が長期に及び、放課後児童クラブの休所が長期化した場合には、保護者の負担が大きくなることから、本市でも今後、夏休み期間中などの扱いについて、保育園とのバランスも踏まえつつ、どのような対応が取れるか検討したいと考えます。

【統報】 新年度（2022年4月以降）から「児童の送迎」等を条件に見直しが図られます。

「公園(グランド)施設の災害復旧」～コロナ禍の子ども達のためにもスポーツ環境を整備～

「南1区 松原京橋線」～高速5号線開通時の安全確保と渋滞緩和策～ 「安心・安全な通学路の整備」～登下校の児童を危険因子から守り抜く～

決算特別委員会は前年度の事業や決算額を審議しては新年度に反映させる大事な機会です。



## 質問

### 「公園(グランド)施設の災害復旧」～コロナ禍の子ども達のためにもスポーツ環境を整備～

**答弁:**公園整備課長

**石橋:** 太田川緑地災害復旧事業について伺いますが、はじめに、アストラムライン不動院前駅の西側河岸にある「天水（あます）グランド」は、いかなる目的で整備され、また、令和2年度の大震による被災状況、その後の復旧事業内容についても教えて下さい。

**公園整備課長:** 天水グラウンドは、市民がスポーツやレクリエーションを気軽に利用できる空間となるよう、太田川の高水敷を利用して整備した公園施設で、令和2年7月豪雨で被災したため復旧を行ったものです。

被災状況は、大雨の増水でグラウンドに水が流入したこと、約1,900立米の土砂が流出し、復旧については、土砂が流出した部分を整地。グラウンド部分には芝を張り、通路として利用されている部分には種子吹付を行うなど、工事は昨年12月に着手、本年5月に完成しています。

**石橋:** (委員会室の大型モニターに、自ら収集・作成した被災・復旧状況リポートを映し出しながら)多くの子どもが使用する天水グランドを、行政が改良復旧（整備）まで施して下さったのですが、整備後の長雨でグラウンドは完全に水没し、青々としていたグラウンドは荒れ果ててしまいました。

私がなぜ、ここまで同グラウンドに言及するかと申しますと、一年前の決算特別委員会でも、私は「スポーツ王国と言われる広島市のスポーツ施設（環境）はどれだけ整っているのか」をテーマに取り上げ、20政令市の中でも、例えばソフトボールや野球場、サッカー場の数にせよ17位から19位の連続で、こうした事情を考慮しても、河岸緑地グランドの災害復旧は、まさにスポーツ環境の整備、プレーする機会の創出に直結しているからに他なりません。



太田川緑地は、祇園大橋から上流の川内・ハ木方面に至るまで、河岸にグランドが數十面ほど確保され、都心部でスポーツができる場所が少ない本市にあって、貴重なプレースポットなのですが、悲しいかな近年頻発する災害の度にグランドは大きく傷み、また、復旧までの一定期間、使用が制限され、子ども達が使いたくとも、なかなか使えない状況になっています。

そこで伺いますが、公園（グランド）施設が被災した際の、復旧プロセスや財源はどのようにになっていますか。

**公園整備課長:** 災害復旧については被災後、まず現地を調査し、必要な場合には応急対策を行った後、本復旧工事実施へ必要な測量・設計を行い、作成した設計書により国の災害査定を受け、その後、

本復旧工事を進めるのが一般的なプロセスです。

また、復旧事業費については、一般的に国の補助事業として実施する本復旧工事は、補助率「3分の2の国の負担金」と「3分の1の市債」を財源とし、国の補助事業対象とならない本復旧工事については、市債を財源とするほか、さらに小規模な維持補修で対応できるものは、単独市費を財源としています。

**石橋:** このコロナ禍で私が危惧するのは、集計データにも表れているように、度重なる活動制限により、子ども達の筋力や視力の低下、そして何より「心の不調」の部分なんですね。

ここに一つ御紹介すれば、太田川の緑地グランドが被災後、なかなか復旧が進まないということで、例えば民間の少年野球チームが土地の管理者と交渉を重ねては、自腹でグランドを修繕された実例があり、民間の方々が負担された諸費用は敢えて公表しませんけども、何十万円どころではなく、しかもこれが初回ではないんです。確かに行政がグランドを修繕する際は、相応のプロセスが必要ですが、なんとか子ども達に動ける場所や機会を提供するにあたり、コロナ禍でこれだけ苦しい社会状況下、親御さんや民間の方々に自腹を切っていただく環境は、絶対に是正しなければなりません。



そこで、被災した公園施設の復旧を、さらに迅速に進めてもらいたいと切に願うのですが、そのために何か工夫をしていらっしゃいますか。

**公園整備課長:** 広範囲で同時多発的に災害が発生した場合、現地調査や応急対策、測量・設計を担う人員不足等が生じて対応に時間を要することが、迅速な災害復旧の課題であると認識しています。

このため、本市では協力事業者を事前に公募及び登録し、災害発生の初動時に速やかな対応ができる体制を構築しており、また、平成30年7月豪雨により広島県内全域で災害が多発し、災害復旧に向かって測量・設計等を行うコンサルタントの確保が困難な状態が発生したことを受け、本市、県及び県内22市町と関係の協会において協定を締結、復旧に向けて迅速かつ確実に測量・設計が行えるよう工夫しており、今後もこうした協定等を活用し、被災した公園施設の早期復旧に取り組んで参ります。

**石橋:** グランドの復旧事業一つにしても、多くの市民の方々が心身ともに健康を保つ福祉サービスの向上へ密接につながっておりますので、引き続き、被災後の早期復旧のほど、よろしくお願いします。

## 「南1区 松原京橋線」～高速5号線開通時の安全確保と渋滞緩和策～

**答弁：高速道路整備担当課長**

**石橋：**JR広島駅の西隣になります「南1区松原京橋線の道路改良」について伺いますが、改めて、昨年度は何に取り組まれたのか。また、この改良事業と高速5号線の関連性を教えて下さい。

**高速道路整備担当課長：**ご指摘の整備事業は、広島高速5号線の供用により増加する交通を円滑に処理するため、駅西高架橋と上柳橋を拡幅し、左折車線を増設するなどの上柳橋東詰交差点の改良を行うもので、本年度の完成に向け、令和2年度は駅西高架橋の上下部工事や上柳橋の拡幅工事に取り組みました。

**石橋：**高速道路開通による交通量増加へ向けた改良整備は本年度で完了とのことですが、例えば、道路を拡幅した分だけ、この高齢社会で横断歩道を渡る人々の時間が延びては、必然的に車両が赤信号で停止を求められる時間も長くなりますので、こうした課題の改善例として、JR広島駅の北口開発を振り返ってみます。

北口に設置されたペデストリアンデッキ（以下、ペデ）は、構想が浮上した時の計画よりも、最終的には北へ延伸されて現在の形状になっており、その意図は（渋滞の軽減や歩行者の安全確保、利便性の向上）強調するまでもありません。

また、北口開発によって一帯エリアの税収は、地価の上昇や各所の増床により、駅周辺だけでも2億から3億円は上がっていましたが、現在はテレビ局やマンションなども建設され、おそらく10億円近くの増収ではないでしょうか。

勿論、増収とは投資へのリターンであって、増収分を自由に使え

ばいいわけではなくとも、ある程度は地元へも還元すべきであり、そこで、高速5号線の出入口となる駅西高架橋交差点へ歩行者の安全確保、渋滞の解消を目的とし、ここに「ペデの新設」（イメージ図を大型モニターで発表）を求めるものですが、いかがでしょうか。

**高速道路整備担当課長：**同交差点への「ペデ新設」案は、御指摘のとおり、広島高速5号線供用時における安全性向上につながるものと認識しており、加えて、広島駅からイズミ本社が立地している二葉の里2街区方面への回遊性を向上させるためには、交差点部分のみならず、2階レベルでの連続した歩行者専用ネットワークを形成する必要があると考えておりますので、今後、2街区やネットワーク沿道の土地利用の進捗状況などを踏まえながら検討を深めて参ります。

**石橋：**アマゾン・エフェクトを持ち出すまでもなく、世界的にも物流のパラダイムシフトが起こる最中、今後も5Gなど更なる高速ネットワーク網が整備され、車両の自動運転化なども飛躍的に進んで参ります。

しかし、そういう時代の入口に、今年の東京五輪選手村では、自動運転による悲しい事故が発生したように今回、私が言及しているのは「一般道と交差点」の話ではなくて、「高速道路と交差点の相性」、その危惧についてなんですね。ですから、高速道路を下りてきた先にある交差点の安全性を確保する意味でも、引き続き、ペデの新設を進めていただきたいと存じます。



## 「安心・安全な通学路の整備」～登下校の児童を危険因子から守り抜く～

**答弁：道路課長**

**石橋：**本年6月下旬に千葉県八街市で、飲酒運転によって児童5人が巻き込まれるトラック事故が発生し、千葉県知事は再発防止へ向けて即座、関係部局に一斉点検を指示しました。

こうした背景も踏まえ伺って参りますが、「安心・安全な通学路の整備」について、令和2年度は何に着手され、また、着手後に残される通学路の危険箇所数も併せて教えて下さい。

**道路課長：**令和2年度は井口小学校や亀山小学校などの通学路の一部において、側溝の蓋掛けによる歩道拡幅や防護柵の設置などを行いました。令和2年度までに235か所において通学路の合同点検を実施し、対策が必要とされた120か所のうち、108か所については歩道整備や路面標示などの対策を実施し、残る12か所も現在、整備中であったり関係各所と調整を行っており、早期完了に向けて引き続き取り組んで参ります。

**石橋：**現在、着々と通学路の安全整備が進められながら、事故の防止へ向けては絶えず「点検と見直し」が求められます。この辺り、どのように取り組まれていますか。

**道路課長：**本市では、継続的に通学路の安全確保に向けて取り組むため、関係機関の連携体制を構築し、通学路の安全確保に関する取組の基本的な方針として「広島市通学路交通安全プログラム」を平成27年6月に策定し、3年ごとに重点課題を設定した上で合同点検を実施するとともに、対策実施後の効果把握を行い、効果の状況を踏まえ、対策の改善・充実を行うこととしています。

**石橋：**では、子ども達が登下校に利用する危険な通学路を一つ御紹介させていただきます。（大型モニターを使用して現場の模様を説明）つまり、東区に住みながら安佐南区の中学校へ越境して通う数十人の中学生が、真横に車がブンブンと通過する非常に危険な状態の中、登下校しているんです。小学校では通学路が設定されながら、中学校になると、通学路の指定はなくとも、中学生が通学に使用している安全上、危険な道路もあり、こうした場合、本市はどのように対応していますか。

**道路課長：**本市では、通学路の指定のない中学校においても、小学校と同様に、教職員等が通学経路の安全点検を定期的に実施し、生徒にとって危険な箇所の把握に努めています。

安全点検の結果、整備が必要な箇所については対策に取り組んでおり、また、地域からの個別要望等に基づき、必要がある箇所については緊急性を勘案し、安全対策に取り組んでいます。

**石橋：**ここに1枚の写真を御紹介しますと、これは令和2年に、先ほど御紹介した場所で発生した大型トラックの横転事故で、その半年前も500mほど先で乗用車が同様に転落事故を起こしています。いかなる通学路であろうとも、常に危険は隣り合わせの状態にありますので、千葉県が関係部局へ一斉点検を御指示されたように、今一度、本市にせよ絶えず求められる「点検と見直し」を徹底していただき、ぜひとも安全な通学路の環境整備を、より確立して貢えるよう、よろしくお願いします。



「核兵器廃絶へ向けて」～悠長に取り組んでいる世界情勢にはない～

「サッカースタジアムを通じたまちづくり」～サッカー場下町へ～

## 質問

## 「核兵器廃絶へ向けて」～悠長に取り組んでいる世界情勢にはない～

**【前提】** 世界的なパンデミックにより、延期を余儀なくされていたNY国連本部でのNPT（核拡散防止条約）再検討会議がようやく1ヶ月後に開催される運びとなり、さらには歴史的な一步を刻むウイーンでの核兵器禁止条約・第1回締約国会議も刻一刻と近づいてきた。(12月議会の後、新型コロナの影響により双方の会議とも年明けに延期が決定)しかし、核兵器保有国は、近年も莫大な軍事費を注いで着々と「核兵器の近代化」を図り、「核の傘」に依存する国々は依然、核の傘を閉じようとはしない。こうした間も、終末時計の針は「過去最短」の時を示し続け、イランの核合意問題に、ウクライナやインド太平洋地域の緊張なども含め、第二次世界大戦の「戦後」にあらず、第三次世界大戦の「戦前」とも表現される今般、被爆者の方々の平均年齢は84歳を迎えるとしている。

御承知のとおり、石油に天然ガスなど、世界のエネルギー源が集中する中東での動乱は、人類の暮らしに直結して参りますが、ではなぜ、現行NPTの体制下、イランが今日を迎えるまでウラン濃縮を進めてこられたのか。

NPTに加盟しても、査察となるIAEAの追加議定書

には未署名で、そのNPTにせよ、平和利用であれば核兵器にも転用可能な高濃縮ウランの製造が、ある種、許されているのが現状であり、この辺りを補完し得る体制に、核兵器へ用いる物質の生産や援助を禁止するためのカットオフ条約が挙げられますが、実質、同条約は利害関係者の思惑も交錯し、現在は悩ましくも宙に浮いた状態です。

そこで、およそ1か月後に迫ったNPT再検討会議にあたり、本市はかねてより参画の意向を打ち出されておりますので、「ヒロシマの心」共々、このたびの核合意問題から端を発したように、今後も同じ轍を踏み、世界の人々が危険にさらされぬよう、NPTの内包する諸課題にも言及していただきたいと切に願うのですが、本市の御所見をお聞かせ下さい。

## 答弁

## 核軍縮・不拡散のため、しっかり要請して参ります。

市民局長

議員から御指摘のあったような諸課題があったために、前回のNPT再検討会議では締約国の意見がまとまらず、最終文書が採択できませんでした。中満国連事務次長も会見等の場で、開催の予定されている今回の会議では、そうした課題を踏まえた上で、核軍縮の具体的な措置を盛り込んだ最終文書の採択を目指したい

と明言されています。

本市としては、今回の会議における発言の場を確保し、締約国が建設的な議論を行う中で、核軍縮・不拡散を進展させるための解決策を生み出すよう、しっかりと要請をして参りたいと思っております。

(その後、NPT再検討会議は延期が決定)



今回はイランの核問題を一例に挙げましたが、他にも、予断を許さぬウクライナ危機にAUKUS（米・英・豪3カ国による新安全保障の枠組み）関連でもNPT違反が取り沙汰されている「豪の原子力潜水艦問題」など、同条約は発効から半世紀が経過しながら未だ、内包する諸課題が世界の安全保障を脅かしています。

私の趣旨は、NPTやTPNW（核禁条約）などの国際法は、世界中の人々の英知を注ぎ、足らずの部分を改正、より熟度の高い条例に変えて行けますので、この度は、核兵器廃絶への道程を協議する貴重な国際会議を前に、改めて提言をさせていただきました。

私達が「物分かりのよい大人」になれば、事態は何も前進しませんので、引き続き、国際平和文化都市から強いメッセージを発信し、将来的には本市と長崎市との間で、交互に核兵器禁止条約の締約国会議が「常設」で開催されるよう、今後とも皆さま懸命に取り組んで参りましょう！



Chernobyl原発視察の際に私も訪れた、ウクライナの首都キエフ。今回の侵攻は明白な国連憲章違反であり、何人の尊い命も奪われることは許されません。

## 「サッカースタジアムを通じたまちづくり」～サッカー場下町へ～

**【前提】** 新サッカースタジアムの準備工事が着々と進み、事業工程も実施設計が佳境を迎えては、間もなく本格的な本体工事に入る段階を迎えている。順調に行けば「2023年12月」に完成し、その後、プレシーズンマッチを2024年2月上旬あたりに開催しては（あくまで推測）2月下旬のシーズン開幕を迎えることとなるが、果たして現時点で懸念事項はないのか？ここに今一度、出発点の「基本設計」に目を向けては、明示されている「交通計画の交通需要予測」にスポットを当てるなど、幾つか問題の提起や新たな提言を行いたい。



試合当日の観客数を通常時2万人、満員時は3万人と想定し、観客が試合開始へ向けていかなる交通手段を用いて、いかなる方角からスタジアム

へ来場されるのかを、過去の行動パターン、人流ビッグデータにより分析、予測値をはじき出してみると、西の横川・寺町方面から東へ向かってスタジアムを目指す人々が全体の「2%」となっています。

このアクセスルートには、細くて狭い「空鞘橋」が架かっているだけで、往路のみならず試合後の「復路」（帰路）など、迂回路として西側ルートが大混乱に陥るのは容易に予測でき、なんらかの手立てが必須なのではないでしょうか。

加えて、新スタジアムの西側には、まちづくりに熱心な「横川商店街」があり、コロナ禍や人口減少で客

足が減少する度に、支援金や補助金で商店街の延命措置を図るのではなく、人流を確保しては、かの地で何十年先までも商売を続けていただけるよう、中央公園広場から川をまたいで延びる、新たな北西ルートとなる「歩道橋を新設すべき」と、ここに提言、強く要望する次第ですが、本市の御所見を伺います。

Jリーグ2018年シーズンでは、サンフレッチェ広島とV・ファーレン長崎の初顔合わせが実現し、「スポーツを通じての平和活動と都市間交流」を誓い合いましたが、なんの偶然か、両都市は2024年の春、同じタイミングで新サッカースタジアムを誕生させる運びとなります。

そこで、大規模事業ゆえ、現時点での確約が難しいのは重々承知の上で伺いますが、ぜひ建設中も長崎市と連携、交流を図った上で、決して大がかりでなくとも、双方のスタジアムに都市間交流を表すシンボルを設置していただき、かつ、最終的には両クラブでオープン興行となる「プレシーズン・ピースマッチ」その実現を懇願する次第ですが、本市の御見解をお聞かせ下さい。



より効果の高い連携方策を検討して参ります。

都市整備局長

中央公園の今後の活用に係る基本方針の中で、回遊性・アクセス性の向上に関する取組として、将来的な横川方面からのアクセス向上について検討することとしており、このため、横川への歩道橋新設については、開業後の歩行者の利用実態などを踏まえ、今後の実現可能性などについて検討することになると考えております。

次に、新サッカースタジアムは、建設場所である中央公園広場全体が平和記念公園と一体となった平和発信の拠点となることを目指しており、今後、施設運営方法等

の検討の中で、こうした方針を実現するための具体的な方策について検討を進めることとしております。

こうした検討を進めるに当たり、本市及び長崎市のスタジアムが同時期に完成することを一つの好機と捉え、これまで両市が協働して取り組んでいる平和の取組と同様に、スタジアム建設を通じた連携、交流を深めることは有意義であることから、議員御提案の取組等も参考とさせていただき、より効果の高い連携方策を検討して参ります。



この歴史的な瞬間は、本市が新たに打ち出した「PXビジョン」（持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン）の中に掲げられている「市民社会における平和意識の醸成」にも寄与するもので、必ずや実現していただき、ここに熱く、強く懇願いたします。

一方、海の向こうの話となりますが、近い将来、権利制限の緩和が進み「アフガニスタンの女子サッカーチーム」が再結成されても、彼女達を再び、温かい拍手で本市の新スタジアムに迎え入れる。つまりは、スポーツを通じた平和外交手段の一つに「復興を遂げた両都市による国際親善マッチ」の実現も目標に据えるなど、同じ空の下、虐げられている人々の痛みに対して、我々は決して無関心であってはなりません。

# 『地域の声を届け、市域までも整える』

ここまで読み進めていただき、誠に有り難うございます。改めて2021年度の9月議会・10月の決算特別委員会・12月議会(約4ヶ月間)における私の発言、その極々一部をご紹介させていただきました。しかしながら、私どもは、市民の方々の暮らしや広島市が「より良く」なるよう、議会の会期中に留まらず、また、平素より昼夜を問わず、常に行政側との協議、意見交換の場を持って取り組んでいる次第です。



## Breaking News 2月議会活動速報

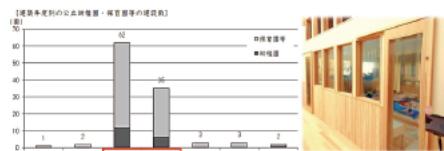
2022年2/22～3/16 予算特別委員会(厚生関係審査)

### 発言の趣旨

新年度の事業・予算の審議を念頭に未来を担う子ども達の保育「環境」の整備に改めて注目・注力したく(待機児童等の需給も絡め)本日の発言に至る



### 現場が抱える諸課題 「公立園の老朽化」



公立園108園のうち「97園」が昭和40～50年代に整備されており今後、次々と建て替えや再編などの更新時期が到来して来る

### 人と環境に優しい“再編”へ向けて

Q. 子ども達へ創造性を掲げる空間の提供。そこへプラスして“地域経済を回す”も念頭に延べ2800人に上る職人が携わる建設事業でうち約9.7%が廿日市市及び広島市の企業。こうした廿日市市の公私連携保育園も参考に本市でも公立園の建て替えなどの機会を捉え木材の活用を進めていただきたいが如何か?

## Pick up

### 議員1人に対する市民の人数

約22,000人 (2022年1月時点)

人口が横ばい傾向の中で近年、議員定数は減少しているので、数値は「微増」の傾向にあります

### 女性議員の割合

9人に1人 (2022年1月時点)

私が初当選した2011年の頃から、人は入れ替わっても「議員中で6人」の割合は変わらず、個人的にも「おじさま中心」議会は変えて行きたいところです

### 議員の平均年齢

最年少 34歳 最年長 91歳 平均62歳 (2022年1月時点)

私が初当選した2011年の平均が「58歳」でしたので、徐々に「上がって」います

### 会議開催日数

1 2 3 4 5 6 103日 (2020年度データ)

年によって変化が生じるので、1年間だけの数字を切り取って、また開催数の多寡による適否は別にいたしましても、20政令市のうち、およそその都市が同年度「平均140日」あたりなので「少ない部類」に入ります

## ひろしま市議会データ

### 議員の平均任期

約4.5期 (2022年1月時点)

市議会議員の任期は1期4年間ですので、あくまで平均では「18年」のキャリアを積んだ議員が現職で活動しています

### 近年で最も遅かった会議終了時刻は?

2013年6月29日 午前0時40分閉会

6月は議会内でも「人事」の時期であり、遅くなった主たる理由は「議長選挙」等ですので、自戒の意味も込めて本来は、まちづくりに関する熟練した議論・審議へ対して貴重な時間は費やされるべきなのですが…

## 1484 Information

この度は、紙媒体での活動報告となりましたが、お手元のスマートフォンやタブレットでもご覧になれる活動報告の「映像版」コーナーを私のホームページ上に設けておりますので(ナレーション解説入り)お時間の許す時にでもアクセスしてみてくださいませ。

右記のURL、もしくはQRからアクセスしてください



[https://koeya.com/report\\_movie/](https://koeya.com/report_movie/)



あとがき

春爛漫の時期に“お花見の名所”と言えば、満開の桜で木道が春色のトンネルに生まれ変わる、せせらぎ公園や安川緑道公園などが挙げられますが、傍から眺めれば、パノラマに広がる美しい光景も、ひとたび近づいてみると…

まるで「ちぎり絵」のように、一本いっぽんの桜木に咲く、一輪いちりんの花びらによって形成、彩られていることに気づかされます。

それは、冒頭の挨拶分に用いました「ご清祥」の一語も同様であり、清祥とは、「健康で幸福に

暮らしている様を喜ぶ」表現ですが、安寧なる広島市の幸せは、お一人おひとりの“暮らしの幸福”あってこそ。

引き続き、同じ時代に、同じまちに住まう者同士、ともに助け合い、支え合っては、未来へ歩んで行ければ幸いです。何卒、良い季節をお過ごしください。

生かされている今に、心から感謝して。

石橋りゅうじ (2022年3月春)

本リポートは規定により政務報告以外の内容は掲載できませんので、何卒、ご容赦ください。



自民党・保守クラブ

発行者 ■ 石橋りゅうじ

〒730-8586 広島市中区国泰寺町一丁目6番34号 石橋りゅうじ 議会棟控室 / Tel.(082)504-2442 / <https://koeya.com/>